

2020年10月1日

一般財団法人セガサミー文化芸術財団

「Dance Base Yokohama」が2020年度グッドデザイン賞を受賞 ～『ダンスをひらく』『ダンスと社会をつなぐ』コンセプトに高評価～

一般財団法人セガサミー文化芸術財団(本社:神奈川県横浜市、代表理事:里見治紀)が運営する「Dance Base Yokohama(ダンスベースヨコハマ)」(通称 DaBY/デイビー)は、2020年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

日本国内におけるコンテンポラリーダンスは、ダンスアーティストがプロフェッショナルとして活動するための環境が十分に整備されておらず、活動を飛躍させるための機会となる創作の場も限られています。また、地域や他ジャンルとの接点が少なく、普及させるための機会も多くはありません。DaBYは、こういった現状を改善することを目的に設立しました。劇場で完成した作品を鑑賞する一歩手前の体験として、気軽にコンテンポラリーダンスに触れる機会を提供する『ダンスをひらく』、様々な企画を開催することでダンス文化への理解や普及を促す『ダンスと社会をつなぐ』、この2つのコンセプトのもと、ダンスを巡る多くの人々が垣根なく集える磁場＝プラットフォームとなることを目指して活動しています。

今回の審査では、DaBYがダンス関係者の国際的な交流の場となることや、他分野との交流、次世代の表現者の育成、コンテンポラリーダンスと社会との関わりを問う活動など、幅広い活動目的のもとに誕生した施設であること、また、オープンな実験場で、ボックスインボックスに構成された空間設計がDaBYのコンセプトを踏まえたデザインであることから、従来にはなかった役割を担う文化施設としての可能性が大きいと評価され、受賞に至りました。

DaBYのコンセプトと空間設計は、愛知県芸術劇場シニアプロデューサーとして国内外のダンスや芸術文化に精通し、DaBYアーティストティックディレクターも兼任する唐津絵理の構想をもとに、地元馬車道に拠点を置き、建築設計を中心に、まちづくりやクリエイターネットワーク構築等で実績のある株式会社オンデザインパートナーズの一色ヒロタカ氏、小澤成美氏、森詩央里氏らとの議論を重ねて完成しました。

空間設計においては、外光を取り入れ、白や木製家具の素材を基調とした明るく風通しの良い、創作活動を行うダンスアーティストにとって居心地の良い空間であることと、舞台芸術に関するアーカイブ資料を手に取りながら、創作風景やプロセスを見学できる回廊部分の設置により、誰もが気軽に立ち寄りダンスと触れることができることを両立しています。

セガサミー文化芸術財団は、夢と感動あふれる芸術・文化活動に対する支援を通じて、豊かな社会の実現と文化の創造に貢献してまいります。

2020年度グッドデザイン賞 受賞ページ

<https://www.g-mark.org/award/describe/51176?token=tEsysdd1ULK>



様々な使い方に対応する、居心地の良いアクティグエリア



ダンスの知や記憶を継承する
回廊型アーカイブエリア



プロのダンサーを対象とした
ワークショップ「プロラボ」



ダンスの情報が
集まる大扉



創作プロセスを作品にし
展示形式で一般公開



ダンサーによる
トークショー



実験的な作品の創造
“コレクティブ”



気軽に見学できるよう
ひらかれたエントランス

<Dance Base Yokohama (DaBY) 概要>

- 名称 : Dance Base Yokohama (ダンスベースヨコハマ)
 愛称 : DaBY (デイビー)
 住所 : 神奈川県横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK&WHITE (北仲ブリック&ホワイト)
 BRICK North 3階
 オープン日 : 2020年6月25日(木)
 開館時間 : 10:00~18:00(火~土 / 日・月休) ※詳細は公式サイトにてご確認ください。
 公式サイト : <https://dancebase.yokohama/>
 利用方法 : 「DaBYメンバーズ」登録(無料)
 公式サイト(<https://dancebase.yokohama.com/members>)にてご登録いただけます。
 アーティスティックディレクター: 唐津絵理 (愛知県芸術劇場シニアプロデューサー)
 空間設計 : 一色ヒロタカ+小澤成美+森詩央里+オンデザイン
 運営 : 一般財団法人セガサミー文化芸術財団

<Dance Base Yokohama (DaBY)>

プロフェッショナルなダンス環境の整備およびダンスに関連するあらゆるクリエイター育成に特化した事業を企画・運営する、ダンスハウス。アーティストックディレクターを唐津絵理(愛知県芸術劇場シニアプロデューサー)が務め、複合芸術であるダンスの発展のため、振付家やダンサーといったアーティストのみならず、音楽家、美術作家、映像作家、照明デザイナー、音響デザイナー、またプロデューサーやプロダクションスタッフ、批評家、研究者、そして観客の皆様の交流拠点になることをめざしています。Dance Base Yokohamaが、ダンスを巡る多くの人々が垣根なく集える磁場=プラットフォームとなるよう、DaBY(デイベー)の愛称をつけました。クリエイションを行うレジデンススペースでありながら、地域のアーティストや市民との交流も行き、ワークショップや実験的なトライアウト公演の実施や、ダンスアーカイブ事業など、さらなる多様な試みを展開予定です。

<株式会社オンデザインパートナーズ>

横浜馬車道にある設計事務所。使い手の想像力を対話型手法で引き上げ、様々なビルディングタイプにおいてオープンでフラットな設計を行う。建築分野におけるコミュニケーションの可能性を探る実践をおこなっている。主な仕事として、「ヨコハマアパートメント」(JIA新人賞、ヴェネチアビエンナーレ審査員特別表彰)、「ISHINOMAKI 2.0」(グッドデザイン復興デザイン賞、地域再生大賞特別賞)。市内では、相鉄いずみ野線沿線のまちづくり拠点「みなまきラボ」、横浜DeNAベイスターズがつくるスポーツ×クリエイティブをテーマにした創造界限拠点「THE BAYS」、近作は、神奈川大学国際学生寮、DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKAなど。

コンテンポラリーダンスへの参加の場所を多様化

ダンス環境をひらく

- ・創作の場や機会を提供
- ・ワークショップや展示・公演を企画
- ・活動や交流する機会をダンスハウスからバックアップ
- ・ダンスハウスに集うダンス情報や創作風景の発信

ダンス文化をひらく

- ・ダンス情報の発信
- ・創作プロセスを見ることができる場の提供
- ・ダンスにまつわる情報を閲覧できる場所を開放

劇場に行く一步手前の『ダンスハウス』から発信し、
ダンスの文化に触れる機会をつくる



気軽に立ち寄れるような、身近な存在となるように
ダンス界で閉じていた重い扉を、都市へ「ひらく」ことで、発展を目指す。

